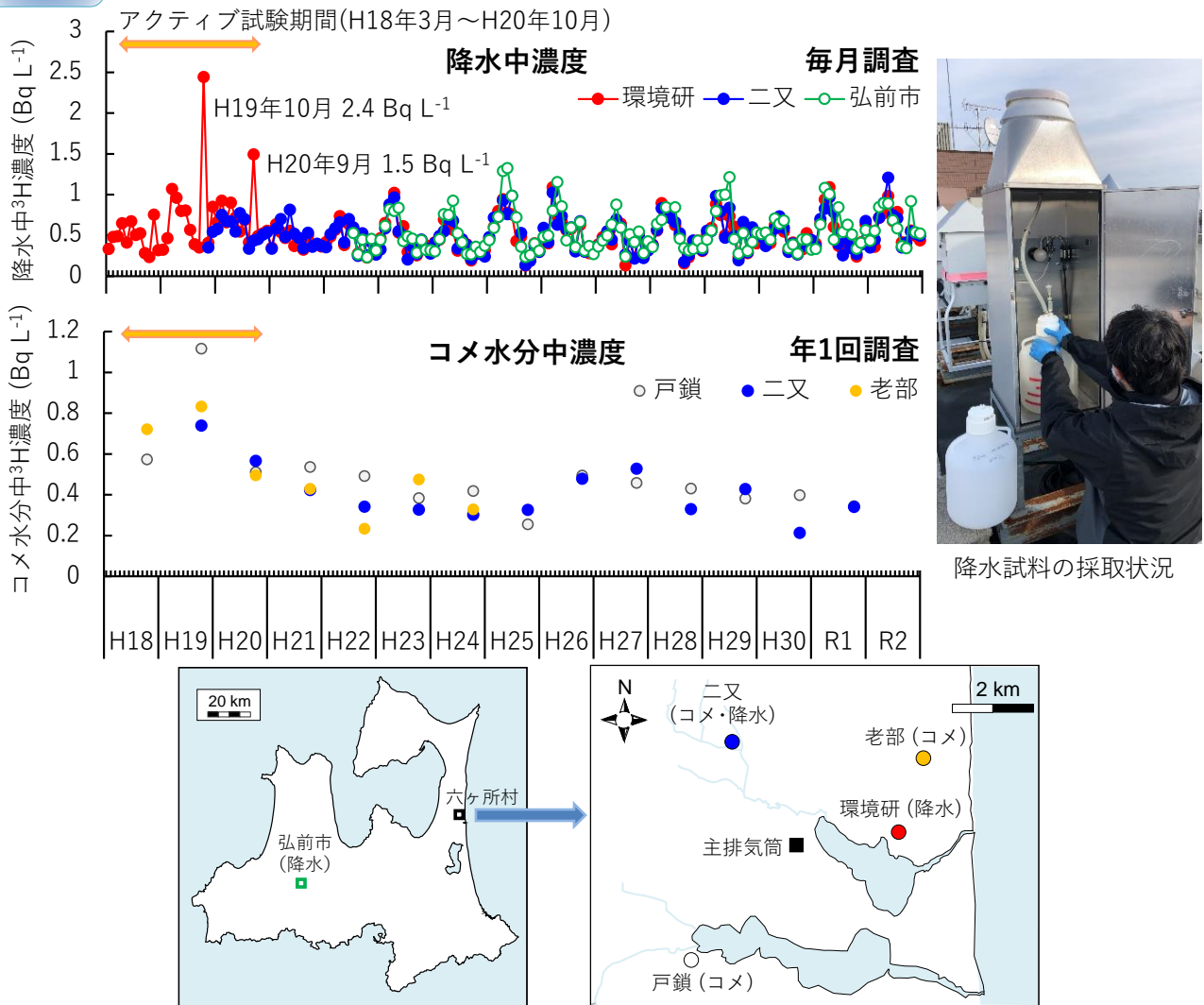


## アクティブ試験前後のトリチウム濃度の変化



大型再処理施設から大気排出される <sup>3</sup>H の環境影響を評価するため、継続的にデータを取得してきました。アクティブ試験時には降水及びコメの水分中の <sup>3</sup>H 濃度が一時的に上昇しましたが、試験後には速やかに低下していたことがわかりました。また、濃度が上昇した時の結果でヒトへの被ばく線量を評価し、大きく影響するレベルではないことがわかりました。なお、試験後の春季に繰り返し観測された降水中 <sup>3</sup>H 濃度の上昇は、春季に大気環境中の <sup>3</sup>H 濃度が高くなるスプリングピークといわれる自然現象によるものです。

### 発表論文

Akata, N. *et al.* (2011) Tritium concentrations in the atmospheric environment at Rokkasho, Japan before the final testing of the spent nuclear fuel reprocessing plant. *Journal of Environmental Radioactivity*, 102, 837-842.

Hasegawa, H. *et al.* (2015) Tritium activity concentrations and residence times of groundwater collected in Rokkasho, Japan. *Radiat. Prot. Dosimetry*, 167, 201-205.